

FY2025 1Q 決算概況資料 Summary of Financial Results

August 14, 2025

東証プライム市場上場 証券コード :8253

Tokyo Stock Exchange Prime Market, Securities Code: 8253

FY2025 1Q 決算ダイジェスト

CREDIT SAISON

FY25 1Q 連結実績

純収益	1,089億円	YoY108.9%	進捗率22.7%
事業利益	229億円	YOY100.3%	進捗率23.9%
四半期利益	160億円	YOY97.0%	進捗率23.8%

- ✓ **増収・事業利益増益**、スルガ銀行の株式一部売却に関連する損失計上により四半期利益は減益
- ✓ 前期反動や特殊要因等により**セグメント毎に強弱感発生**
- ✓ **業績予想は据え置く**

1Q業績を鑑みセグメント計画を精査中（上期決算公表予定）、

セグメント計画の入り繰りは発生する見通しであるものの、連結事業利益計画960億円は据え置く

セグメント別業績概況 ^{*1}

Overview of Business Results by Segment

CREDIT SAISON

(億円 / ¥100 Million)

事業利益又は事業損失(△) Business Profit or loss	FY24-1Q	FY25-1Q	YOY	FY25計画 Plan	進捗率 Progress rate
ペイメント Payment	63	115	181.1%	260	44.4%
リース Lease	10	10	105.4%	40	27.3%
ファイナンス Finance	90	90	99.4%	362	25.0%
不動産関連 Real estate related	46	18	40.3%	175	10.8%
グローバル Global	21	△8	—	110	—
エンタテインメント Entertainment	0	7	—	13	54.5%
計 Total	233	234	100.2%	—	—
セグメント間取引 Intersegment transactions	△4	△4	—	—	—
連結 Consolidated	228	229	100.3%	960 ^{*2}	23.9%

(^{*1})FY25-1Qより、2025年6月に行った組織改定に伴い、「ペイメント事業」に含まれていた家賃保証事業を「ファイナンス事業」に変更しています。なおセグメント変更に伴い、FY24-1Qのセグメント情報は、変更後の報告セグメント区分に組み替えて表示しています。(^{*2})セグメント間取引を含む。

01. 各事業の概況

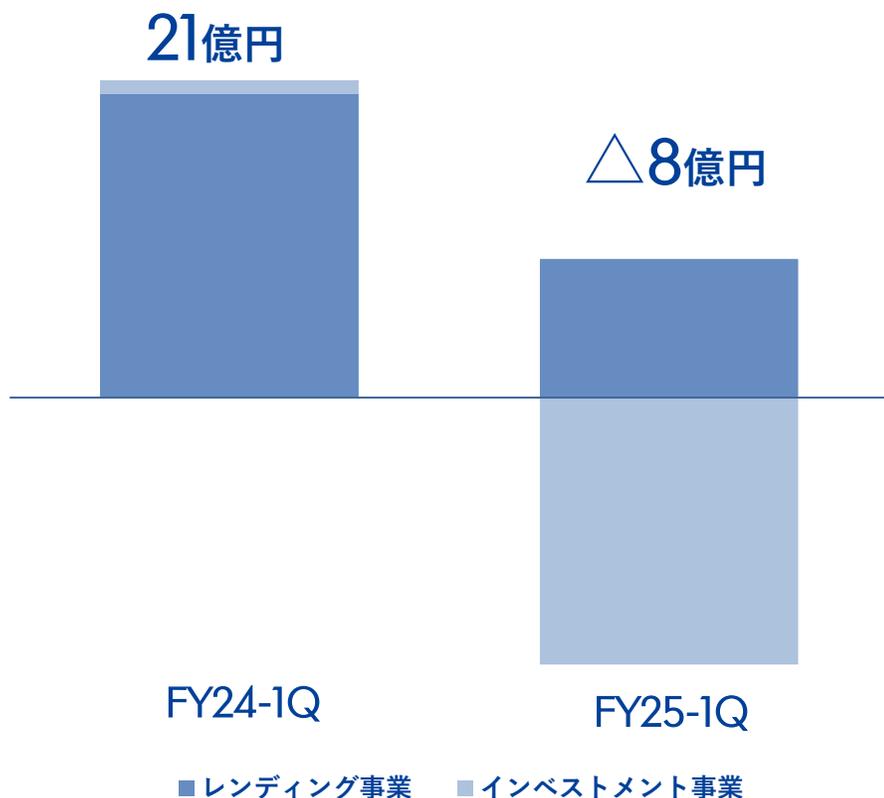
Overview of Each Business Segment

概況

1Q：対計画下振れ

<レンディング事業> インド事業は特殊要因等によりコストが増加。ブラジル・ベトナム事業は順調に伸長。
 <インベストメント事業> 投資先の評価損計上等により事業損失を計上 ⇒ グローバルセグメントは増収減益

■セグメント事業利益



レンディング事業 9億円 (前年差△11億円)

<事業利益貢献>



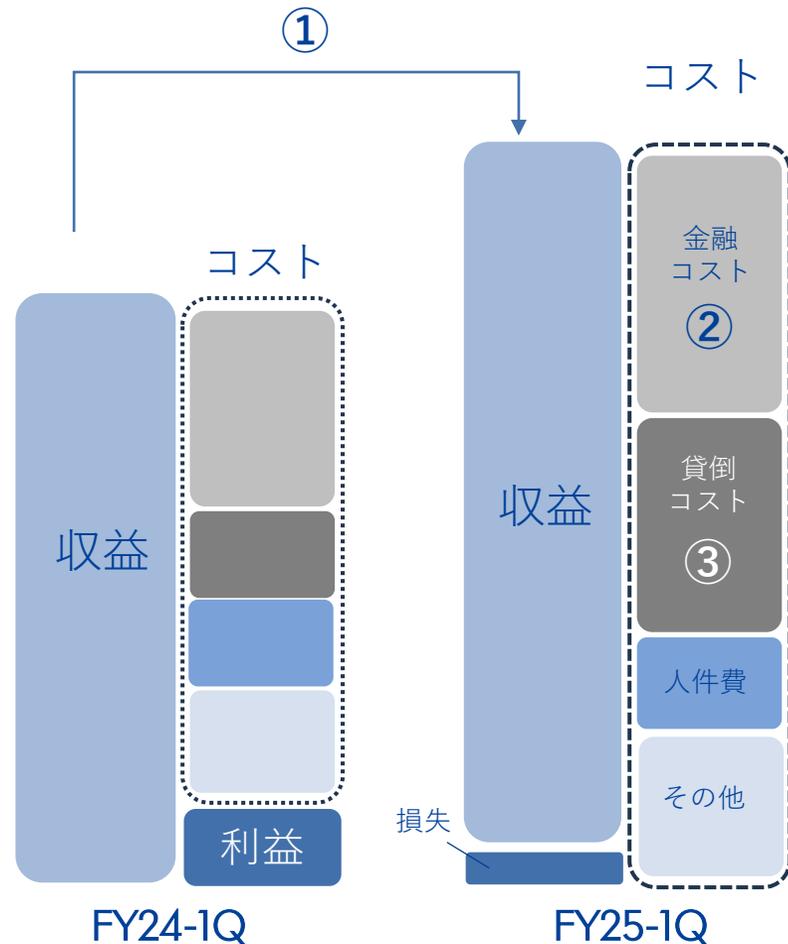
インベストメント事業 △18億円 (前年差△19億円)

投資先の評価損の計上等により事業損失を計上

Credit Saison India 1Qの状況 (現地決算情報)

※Credit Saison India (インド現地) 開示資料より簡易的に作成 ※連結決算とは異なります

- ✓ 債権残高の伸長等により収益は増加した一方、金融コスト、特殊要因等による貸倒コスト増加により事業損失を計上



①収益 前年差 + 約23億INR (+ 約27億円)
債権残高の堅調な拡大等により増収

②金融コスト 前年差 + 約12億INR (+ 約17億円)
債権残高拡大に伴う金融コストの増加 (期初計画通り)

③貸倒コスト 前年差 + 約17億INR (+ 約27億円)

(1) RBI (インド中央銀行) による引当方針に則り、貸倒コストを計上 (約6億円)
2Qまで貸倒コストを追加計上予定 ※連結決算では戻入

(2) 政府保証制度影響、前期の与信モデル移行前の債権悪化等による
貸倒コストの増加 (期初計画差 約18億円)

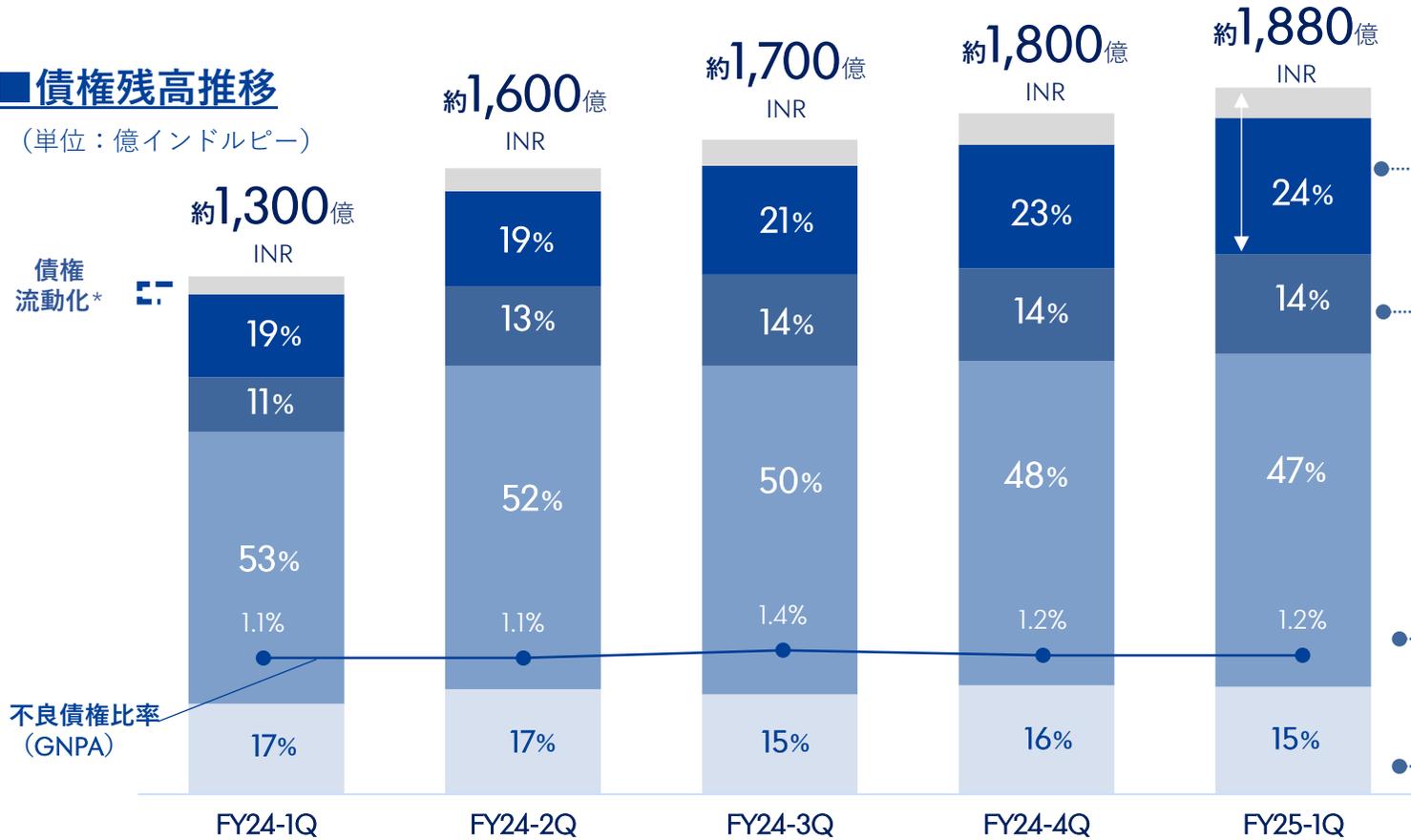
▶ 与信モデル移行後の延滞状況は引き続き改善

Credit Saison India 債権残高推移

- ✓ プロダクト毎に強弱感はあるものの債権残高は堅調に拡大
- ✓ 引き続き、ダイレクトレンディングを中心とした戦略により成長を目指す

■ 債権残高推移

(単位：億インドルピー)



ダイレクトレンディング



ブランチレンディング：支店数 63

新規実行額は前年比+約35%と伸長するも、政府保証制度影響を考慮し新規実行額・残高ともに計画は下回る



エンベデットファイナンス

：アクティブパートナー数 13社

新規実行額は前年比+約20%と伸長するも、新規実行額・残高の計画はやや下回る

ダイレクトレンディング拡大方針は不変
制度影響を鑑みた注力商品の見直しを実施



パートナーシップレンディング

：パートナー数 13社



ホールセールレンディング

：パートナー数 69社

新規実行額は堅調に推移しつつ、残高は計画を超過

日本円
ベース

(期末日レート)

約2,600億円

(INR 1.93円)

約2,800億円

(INR 1.71円)

約3,200億円

(INR 1.85円)

約3,100億円

(INR 1.75円)

約3,200億円

(INR 1.70円)

* 債権流動化・・・Credit Saison Indiaが貸付した債権を銀行などの金融機関へ売却、資産や資本の効率化を図る

Credit Saison Brazil / ベトナムHD Saison



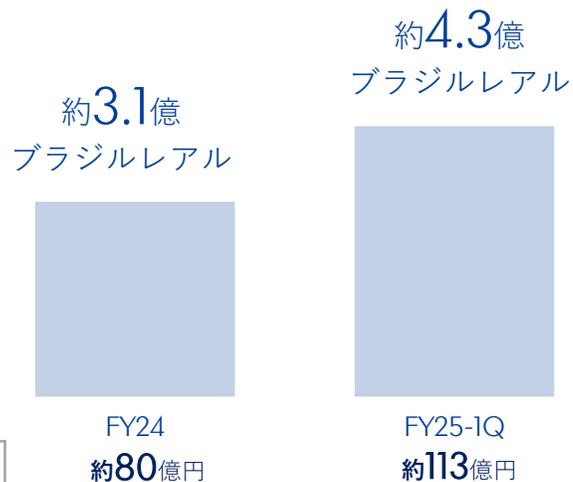
Credit Saison Brazil

- ✓ 現地Fintech事業者との提携を通じたBtoBtoCモデルのレンディングを展開
- ✓ 対象領域の拡大やリスク分散を進めながら残高を着実に積み上げ

事業利益貢献

4.1億円 (前年差 +0.8億円)

残高



(BRL 25.97円)

(BRL 26.44円)



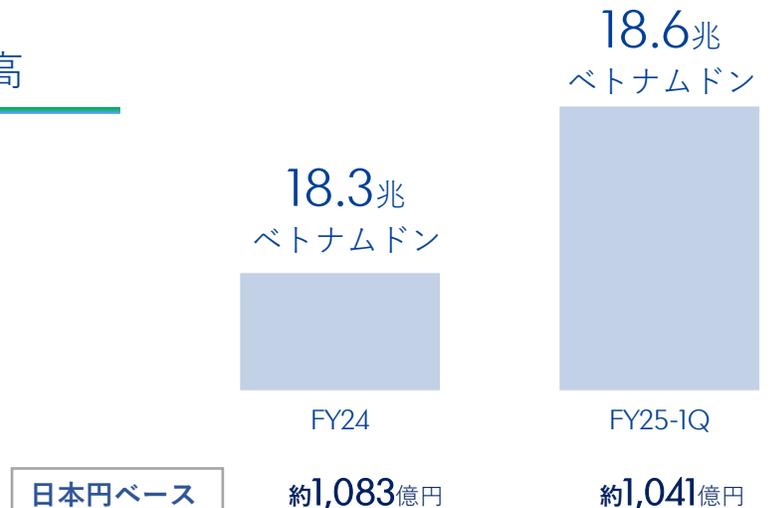
HD Saison Finance

- ✓ ベトナムにおけるリテールファイナンス事業 (二輪・家電・キャッシュローン等)
- ✓ 債権残高の拡大と債権の良質化を背景に収益性を維持しつつ、引き続き安定的な利益貢献を継続

事業利益貢献

11.5億円 (前年差 +12.7億円)

債権残高



(期末日レート)

(VND 0.0059円)

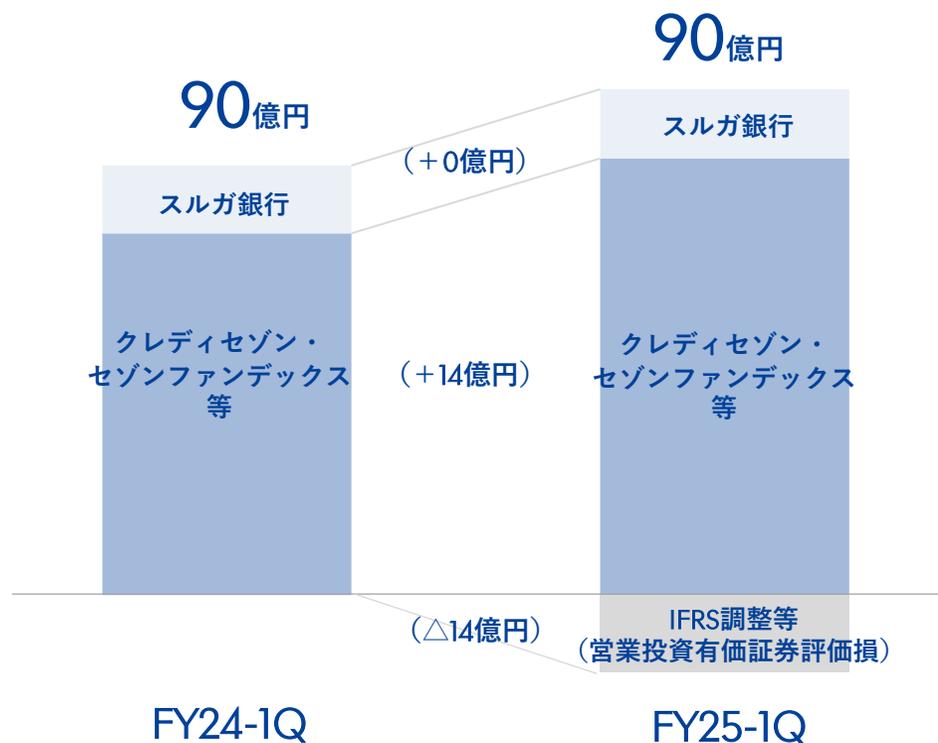
(VND 0.0056円)

概況

1Q：対計画通り

クレディセゾンとセゾンファンデックスにおける事業は増益となった一方、IFRS調整等（営業投資有価証券評価損）により、増収減益

■セグメント事業利益 ※ () は前年差

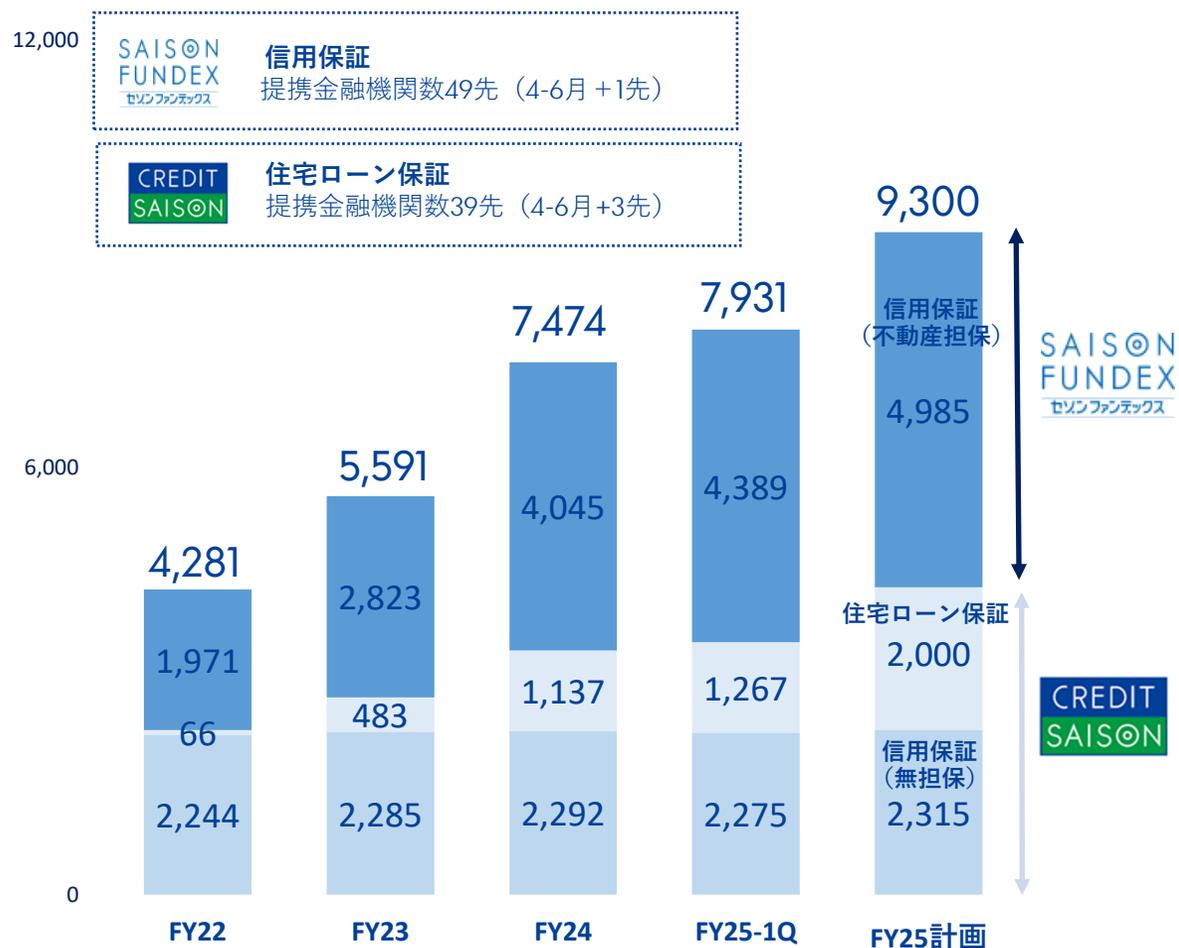


- ✓ クレディセゾン単体は**住宅ローン保証の残高伸長**や、金利上昇に伴う変動金利商品の適用金利上昇による**不動産担保収益拡大**等により増益
- ✓ セゾンファンデックスは新規提携先拡大や、既存取引先とのリレーション強化等により**残高を伸長**、不動産担保ローンやプロジェクト融資の**適用金利上昇**も寄与し**事業利益貢献が拡大**
- ✓ 一方、IFRS調整等（営業投資有価証券評価損）により**連結ファイナンスセグメントでは増収減益**

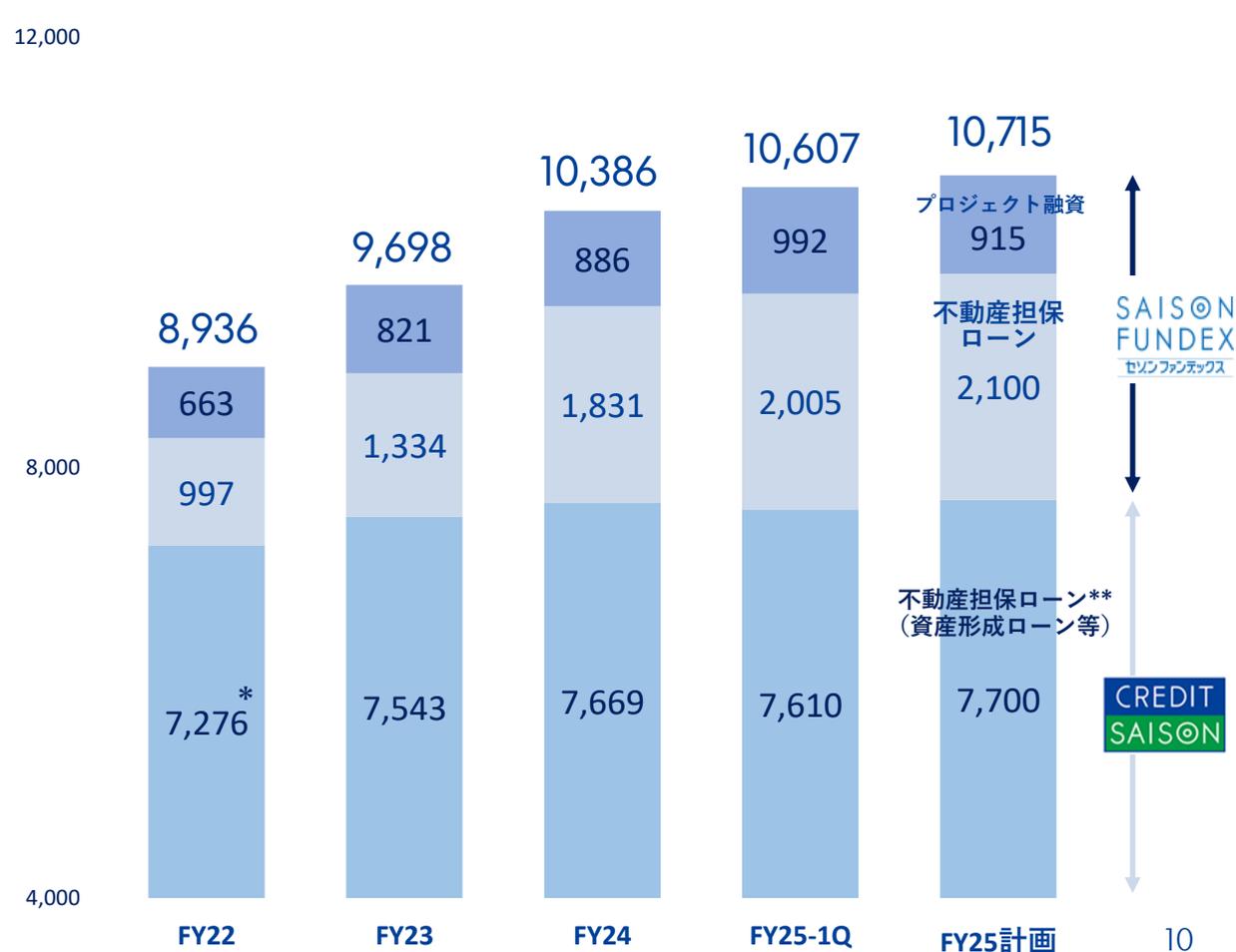
主要指標

✓ 保証ビジネス、不動産ファイナンスビジネスともに残高は堅調に拡大
2Q以降も年間計画達成に向けて持続的な成長を目指す

■保証ビジネス残高 (億円)



■不動産ファイナンスビジネス残高 (億円)

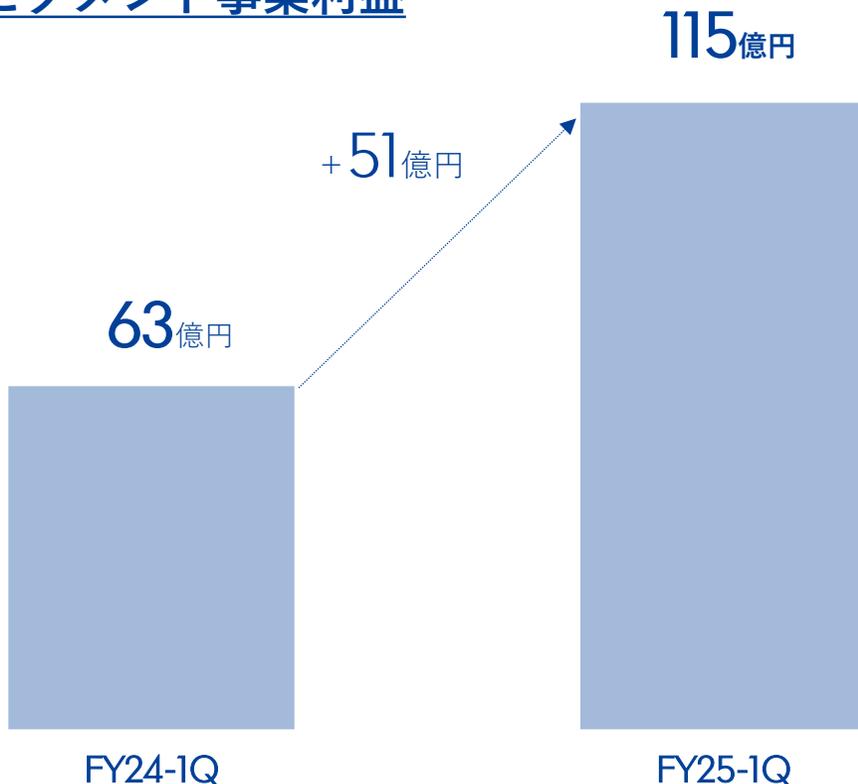


概況

1Q：対計画不振

プレミアム戦略*推進によるショッピング取扱高、ショッピングリボ・分割残高の伸長
前期から進めている商品改定に伴う年会費・手数料設計の見直し（リボ手数料率の引き上げ等）も寄与して増収増益

■セグメント事業利益



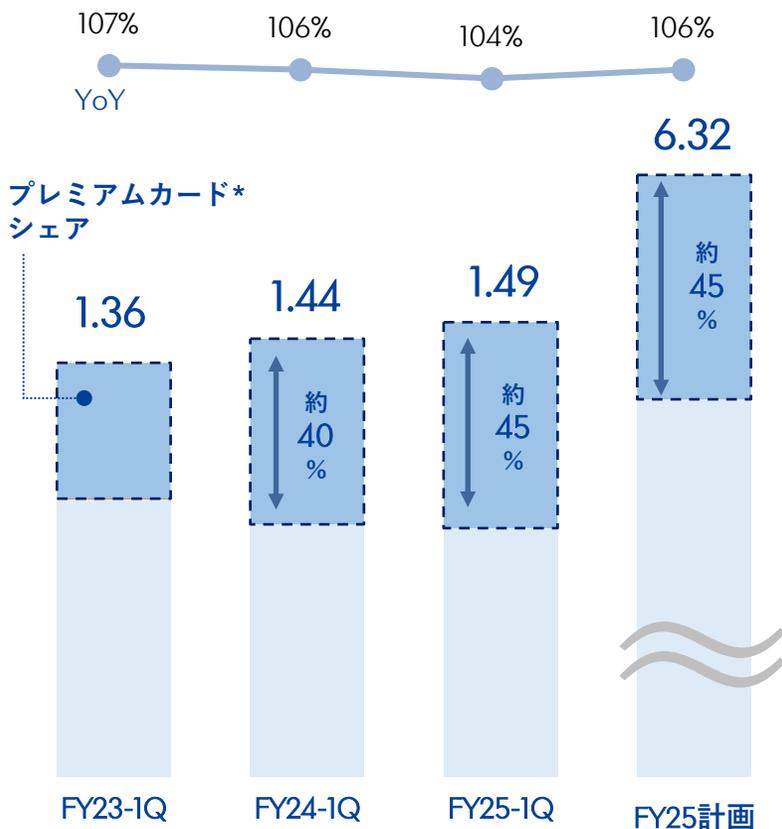
- ✓ プレミアム戦略の推進等による**ショッピング取扱高の伸長**
- ✓ **ショッピングリボ・分割収益の拡大**（前差+約40億円）
 - ・リボ残高拡大影響（約10億円）、リボ手数料率引き上げ影響（約20億円）
 - ・前期リリースの分割サービス「あとから分割」残高が順調に拡大
- ✓ 前期から進めている商品改定に伴う年会費・手数料設計の見直しによる**手数料収益の拡大**（前差+約10億円）※各施策合計
⇒収益性向上に向けて新しい施策も検討中
- ✓ AI・DXを活用した効率的な事業運営と事業構造改革の進展による**コスト抑制**

※プレミアム戦略とは年会費無料のマス向け一般カードからゴールドカード以上、個人事業主・SME向けカードの拡大を目指す戦略

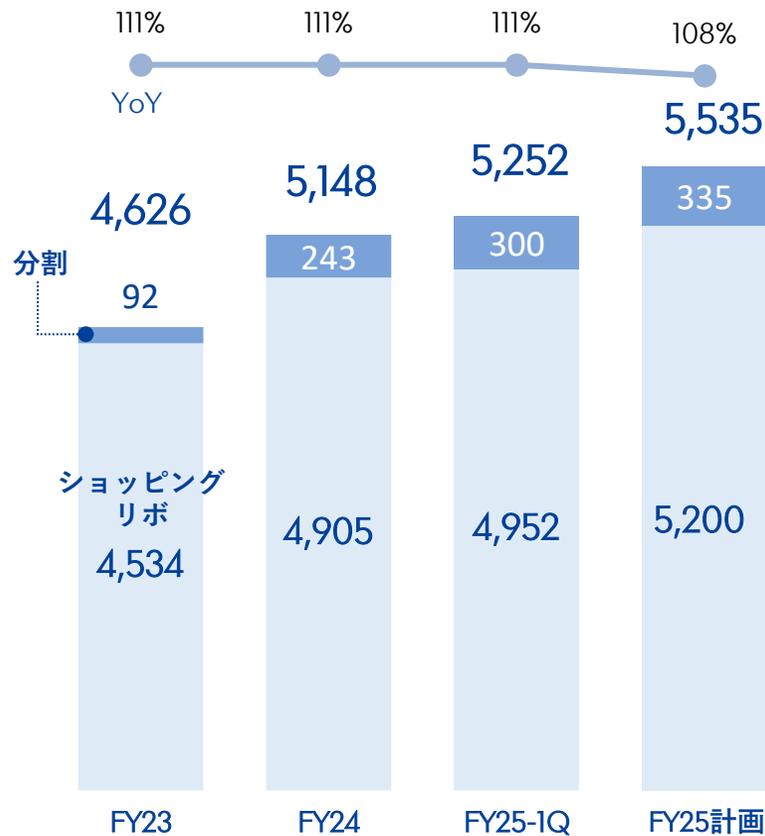
主要指標

✓ 既存提携先との取り組み深耕や新しいアライアンス戦略等により持続的な成長を目指す

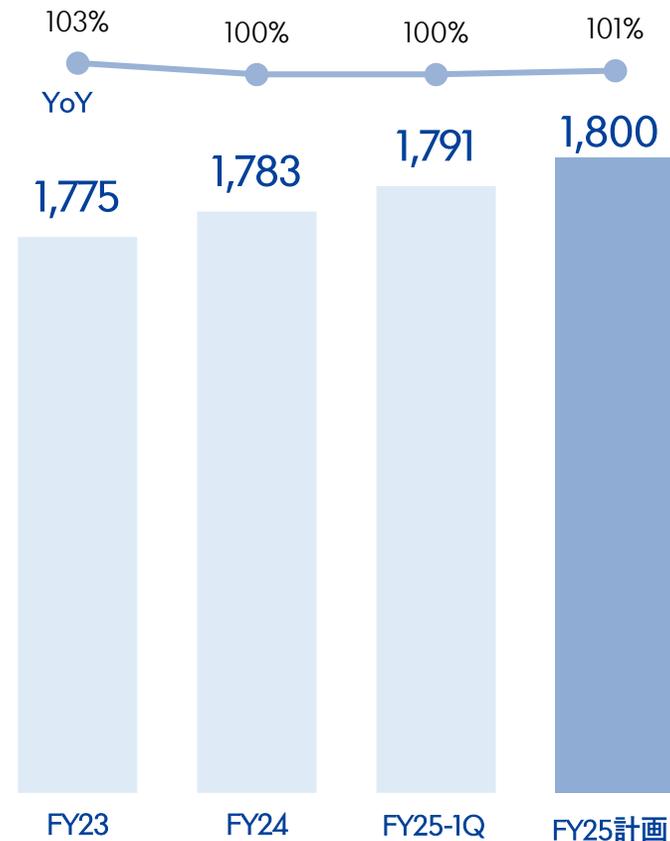
■ ショッピング取扱高 (兆円)



■ ショッピングリボ・分割残高 (億円)



■ キャッシング残高 (億円)



- ✓ プレミアム戦略推進により高単価・高稼動顧客シェアが拡大
- ✓ 稼働会員に占めるプレミアムカードシェアは約25% (前年差+2%pt)

- ✓ リボ：プレミアムカードを中心に残単価伸長
- ✓ 分割：「あとから分割」は若年層を中心に拡大**

- ✓ プロモーション効果等により振込(ONLINE)キャッシングが拡大
- ✓ アプリ改修により新規利用拡大を目指す

収益性向上に向けた取り組みの進捗

- ✓ 商品改定や手数料設計の見直しを前期から順次開始。今後も追加施策を検討中。

リボ手数料率引き上げ

収益インパクト（見込み）
※施策開始から12か月間

- ✓ 2024年11月引き落とし分からセゾンブランドのリボ料率を最大18%（平均2%pt）に引き上げ
- ✓ 2025年12月引き落とし分から一部UCブランドのリボ料率を18%（+3%pt）に引き上げ

約90億円
※25/4-6、内約20億円

約10億円

ニーズを捉えた商品性の見直し（2024年度～順次開始）

- ✓ 2025年6月～プラチナAMEX／プラチナビジネスAMEXのサービスリニューアル・サービスリニューアルに伴う年会費の改定

約10億円

サービスに見合った手数料設計の見直し（2024年度～順次開始）

- ✓ 2024年12月～海外でのカード利用時に発生する事務処理経費（マークアップフィー）変更
- ✓ 2024年12月 ご利用明細書発行手数料の改定
※1通あたり【改定前】110円（税込）→【改定後】330円（税込）
- ✓ 2025年8月～一部カードを対象に、未稼働会員へカードサービス手数料を導入

約10億円

約5億円

約15億円

その他のセグメント

不動産関連 事業利益18億円（前年差△27億円）

1Q：対計画下振れ

- ✓ セゾンファンデックスにおけるリースバックは残高を拡大
- ✓ セゾンリアルティにおける前期の整理事業資産売却益反動（約△20億円）、および当初1Q売却予定の案件が下期以降にずれたことで減収減益

リース 事業利益10億円（前年差+0億円）

1Q：対計画通り

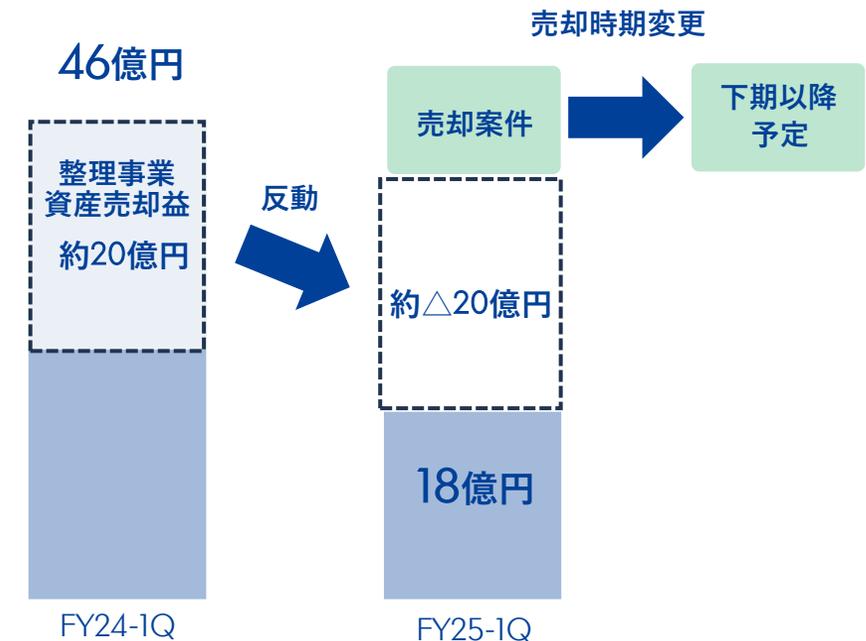
既存主力販売店への営業強化と新規提携先増加による取扱高の伸長、料率改定により増収増益

エンタテインメント 事業利益7億円（前年差+6億円）

1Q：対計画上振れ

- ✓ 前期の新店舗オープンに伴う対応の反動影響により増収増益
- ✓ FY24-3Q決算でお示しした「低成長かつ低採算事業に関する見直し」のひとつとして、コンチェルトのアミューズメント事業撤退に関する基本合意を締結（2025年7月）

■不動産関連 セグメント事業利益



債権リスク

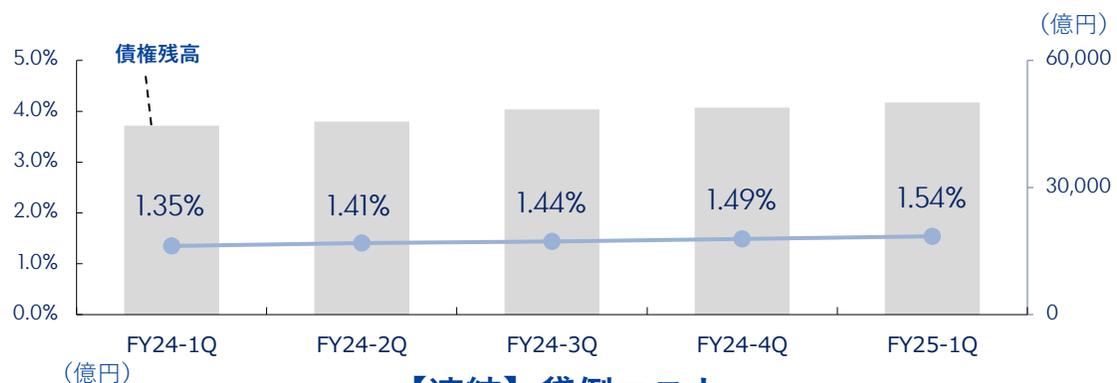
- ✓ 【単体】ショッピング債権の90日以上延滞率：前期四半期実績として0.1~0.25%pt幅での上昇トレンドから、1Qの上昇幅は0.1%pt未満に縮小

※例年3Qは季節性要因として残高拡大により延滞率減少

貸倒コスト：四半期90億円程度でほぼ横ばい

- ✓ 【連結】貸倒コスト：インド事業の債権残高拡大および特殊要因等により増加

【連結】90日以上延滞率



【単体】90日以上延滞率



【連結】貸倒コスト



【単体】貸倒コスト



未入金率や返済猶予債権の状況から、将来の延滞債権等の増加に備えた特別引当金

02. FY2025 1Q 決算概要 Financial Results Summary

決算サマリー

Financial Summary

CREDIT SAISON

(億円 / ¥100 Million)

		FY24 1Q	FY25 1Q	YOY	FY25計画 Plan	進捗率 Progress rate
連結 Consolidated	純収益 Net revenue	1,000	1,089	108.9%	4,790	22.7%
	事業利益 Business profit	228	229	100.3%	960	23.9%
	四半期利益 Profit attributable to owners of parent	165	160	97.0%	675	23.8%
単体 Non-consolidated	営業収益 Operating revenue	735	826	112.4%	3,425	24.1%
	営業利益 Operating profit	98	161	165.0%	485	33.3%
	経常利益 Ordinary profit	123	187	151.3%	555	33.7%
	四半期純利益 Profit	102	164	161.0%	435	37.8%

セグメント別業績概況 ^{*1}

Overview of Business Results by Segment

CREDIT SAISON

(億円 / ¥100 Million)

純収益

Net revenue

ペイメント

Payment

リース

Lease

ファイナンス

Finance

不動産関連

Real estate related

グローバル

Global

エンタテインメント

Entertainment

計

Total

セグメント間取引

Intersegment transactions

連結

Consolidated

FY24-1Q

FY25-1Q

YOY

FY25計画 ^{*2}
Plan

進捗率
Progress rate

599

672

112.3%

2,746

24.5%

32

34

107.0%

146

23.7%

168

180

106.8%

777

23.2%

74

49

67.2%

318

15.7%

117

141

119.9%

685

20.6%

14

17

119.3%

70

24.8%

1,006

1,095

108.8%

—

—

△6

△6

—

—

—

1,000

1,089

108.9%

4,790 ^{*3}

22.7%

(^{*1})FY25-1Qより、2025年6月に行った組織改定に伴い、「ペイメント事業」に含まれていた家賃保証事業を「ファイナンス事業」に変更しています。なおセグメント変更に伴い、FY24-1Qのセグメント情報は、変更後の報告セグメント区分に組み替えて表示しています。(^{*2})計画値は、各セグメントに金融収益配賦前の数字です。(^{*3})金融収益48億円を含む。

セグメント別業績概況 ^{*1}

Overview of Business Results by Segment

CREDIT SAISON

(億円 / ¥100 Million)

事業利益又は事業損失(△) Business Profit or loss	FY24-1Q	FY25-1Q	YOY	FY25計画 Plan	進捗率 Progress rate
ペイメント Payment	63	115	181.1%	260	44.4%
リース Lease	10	10	105.4%	40	27.3%
ファイナンス Finance	90	90	99.4%	362	25.0%
不動産関連 Real estate related	46	18	40.3%	175	10.8%
グローバル Global	21	△8	—	110	—
エンタテインメント Entertainment	0	7	—	13	54.5%
計 Total	233	234	100.2%	—	—
セグメント間取引 Intersegment transactions	△4	△4	—	—	—
連結 Consolidated	228	229	100.3%	960 ^{*2}	23.9%

(^{*1})FY25-1Qより、2025年6月に行った組織改定に伴い、「ペイメント事業」に含まれていた家賃保証事業を「ファイナンス事業」に変更しています。なおセグメント変更に伴い、FY24-1Qのセグメント情報は、変更後の報告セグメント区分に組み替えて表示しています。(^{*2})セグメント間取引を含む。

連結会社の貢献状況

CREDIT SAISON

■事業利益 連単差

(単位：億円)

	連結 事業利益	単体 経常利益	連単差
FY25-1Q	229.3	187.0	42.2
(前年差)	0.6	63.4	△62.7

■連結会社の貢献状況

(単位：億円)

		事業利益貢献	前年差	事業内容
主な 連結子会社	(株)セゾンファンデックス	38.6	+9.3	不動産金融事業・信用保証事業・個人向け融資事業
	セゾン債権回収(株)	5.5	+0.3	サービサー（債権回収）業
	(株)コンチェルト	4.8	+4.3	アミューズメント運営事業・不動産賃貸事業
	Credit Saison Brazil Participações Ltda.	4.1	+0.8	ブラジルにおけるデジタルレンディング事業
	(参考)セゾンリアルティグループ	1.8	△27.6	総合不動産事業
	(参考)Kisetsu Saison Finance(India)Pvt. Ltd.	△4.2	△16.7	インドにおけるデジタルレンディング事業
主な持分法 適用関連会社	スルガ銀行(株)	14.5	+0.3	銀行業
	HD SAISON Finance Co., Ltd.	11.5	+12.7	ベトナムにおけるリテールファイナンス事業
	高島屋ファイナンシャル・パートナーズ(株)	2.8	△0.0	クレジットカード事業、保険・投資信託・信託事業
	(株)セブンC Sカードサービス	2.2	△0.7	クレジットカード事業

公表内容

自己株式取得実施

中計期間中（FY24-26）に
700億円を目途に取得を計画

- ✓ 2025/4/7までに500億円を実施済み
- ✓ 2025/5～2025/12までに
200億円の追加取得を実施予定

政策保有株式縮減

中計期間中（FY24-26）に70%相当を縮減

進捗

2025/5～2025/7に
115億円を実施済み（進捗率57.8%）

※2025年7月31日現在（適時開示ベース）

縮減の進捗率は58.7%

尚、中計期間中累計の投資有価証券売却益は約187億円

※2025年6月30日現在。進捗率は2024年3月末時点の時価をベースに算出。
※連結決算においては、その他の包括利益として会計処理されるため、
親会社の所有者に帰属する当期利益に与える影響はありません。

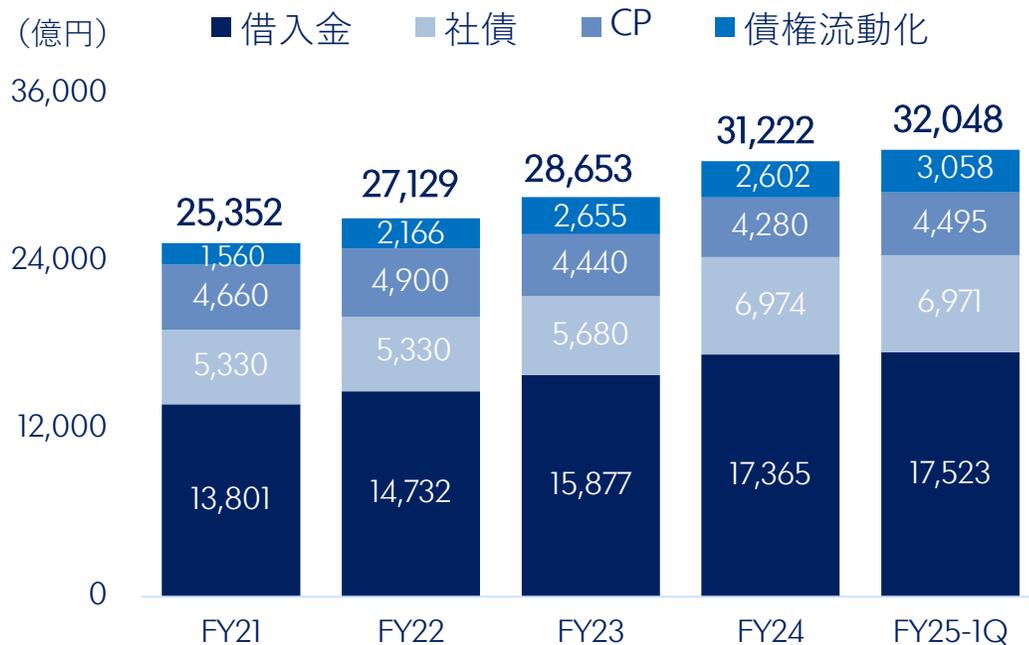
財務政策

■健全な財務基盤について

信用格付

- ・ R&I A+ ※1996年10月以降 25年以上「A+」継続
- ・ JCR AA- ※2025年1月 新規取得

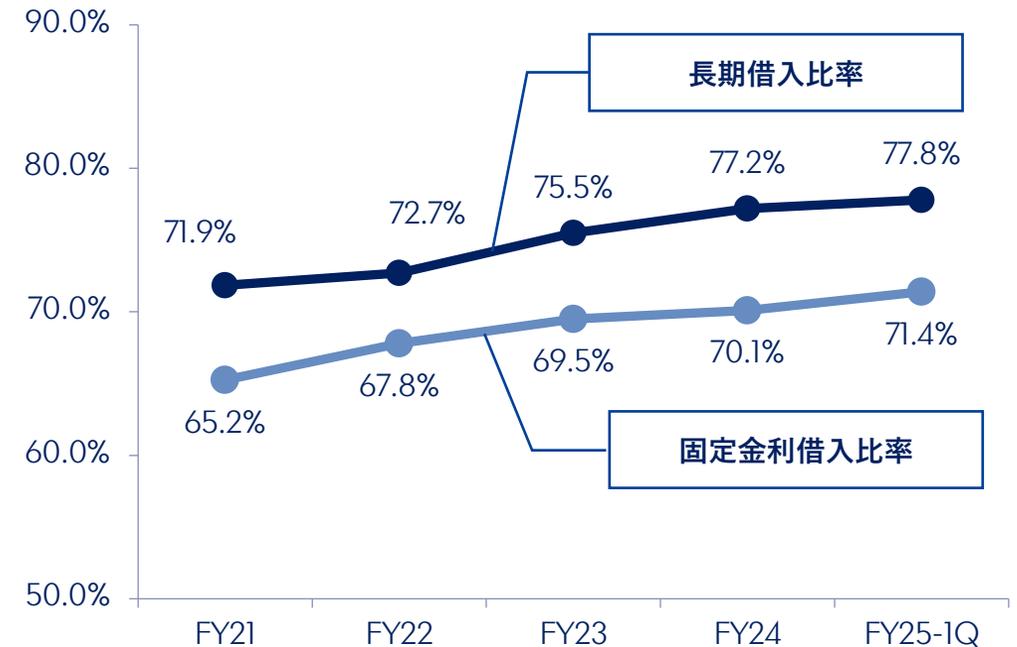
【単体】有利子負債残高推移



■有利子負債の構造について

- ・ 有利子負債の約8割程度を長期資金で構成
- ・ 固定金利調達は全体の約7割程度で構成
- ・ 流動性補完枠はコミットメントライン等を**5,800**億円備える

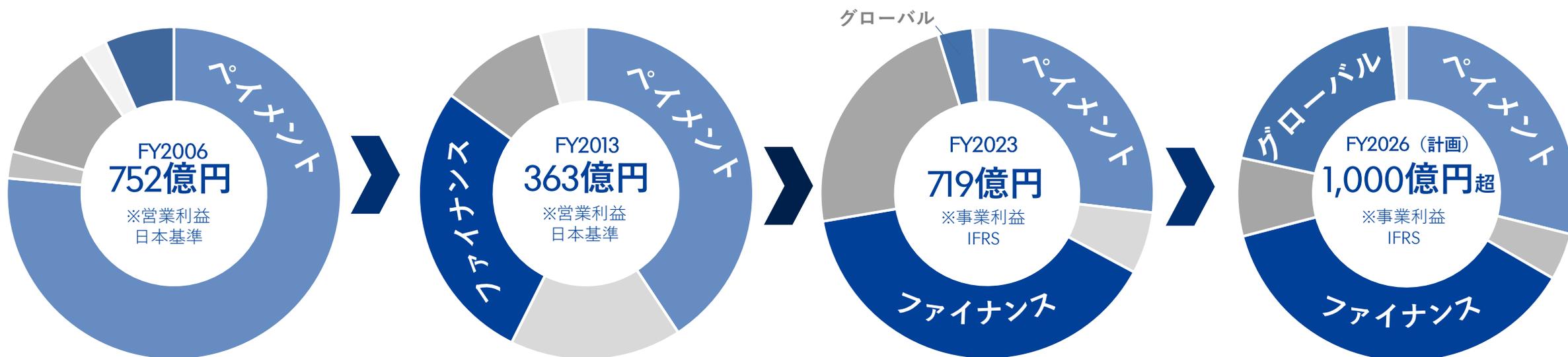
【単体】長期・固定借入比率推移



Appendix

利益構造変革

ペイメント一本足から脱却し、国内事業 + 海外事業で新たな成長ステージへ



※経常利益801億円

ペイメント一本足

※経常利益444億円

国内事業をとりまく環境変化*による
利益成長鈍化局面
ファイナンス事業の加速

国内事業の再構築・
グローバル事業のフィールド拡大

中期経営計画FY24-26
企業価値の向上
PBRI倍超・時価総額1兆円超

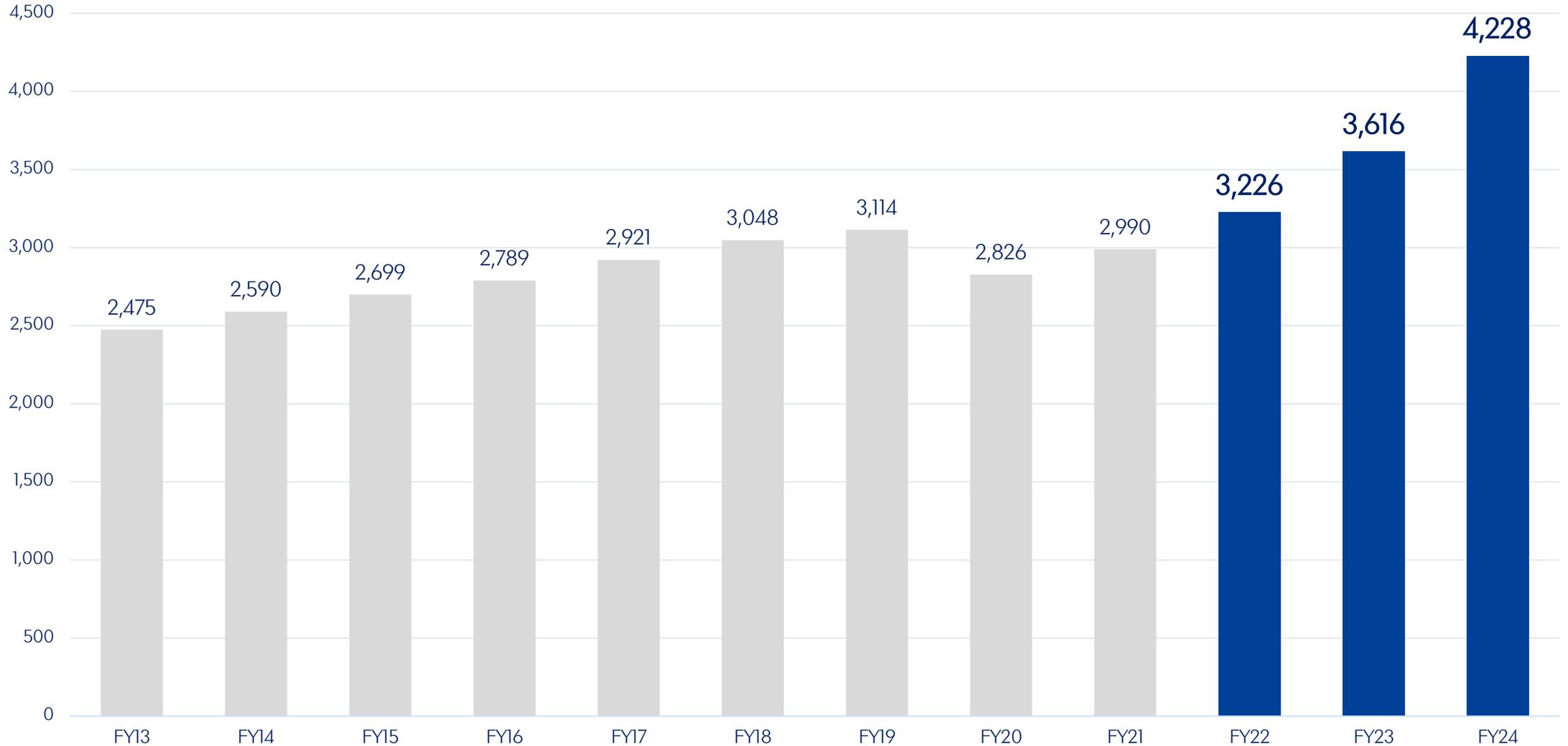
*貸金業法の改正（上限金利の引き下げ、総量規制）、過払い、セゾンリアルティ（旧アトリウム）の再建、共同基幹システム開発

※本ページではFY2006「信販及び金融」セグメントを現在の「ペイメント」セグメントとしています。 ※当社グループはFY2018よりIFRS会計を導入しています。

連結 営業収益／純収益の推移

(単位：億円)

*FY17まで日本基準を適用しています。FY18からIFRS（国際財務報告基準）を適用しています。



連結 経常利益／事業利益の推移

*FY17まで日本基準を適用しています。FY18からIFRS（国際財務報告基準）を適用しています。

(単位：億円)



社外からの評価（一例）

■ESG評価

GPIFが採用する6つのESG指数のうち、
5つの構成銘柄に選定



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

2025 CONSTITUENT MSCI日本株
ESGセレクト・リーダーズ指数

2025 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)

■IRサイト評価

主要な2つのサイトランキングで
最優秀賞 & 銅賞をW受賞

2024年
初選定



2024年
初選定



■DX評価

DX推進の実績が評価され、DX銘柄は3年連続選定



IR・投資家情報

<https://corporate.saisoncard.co.jp/ir/>

統合レポート2024

https://corporate.saisoncard.co.jp/ir/integrated_report/

- ・本資料では年度表記にFYを使用しています。
例えば、FY24は2025年3月期（2024年4月～2025年3月）を指しており、他年度も同様に表しています。
- ・本資料のうち、業績見通し等に記載されている各数値は、
現在入手可能な情報での判断および仮定に基づき予測算定しております。
この当社判断や仮定による不確定性および今後の事業運営や経済環境など、
内外の状況変化による変動可能性如何によっては、実際の業績などが見通しの数値と異なる可能性があります。